

# 九州における苗木の 生産拡大に向けた支援

## はじめに

九州森林管理局では、令和6年度に植栽されたスギ苗木204万本のうち、花粉の少ないスギ苗木の使用実績は173万本と、85%を占めています。一方、近年の主伐面積の増加に伴い、九州全体で苗木が不足しています。この背景には、苗木の「もと」となる穂木<sup>※2</sup>の採取が可能な母樹<sup>※3</sup>が足りていない現状があり、大きな課題となっています。

今回は、こうした課題の解決に向けて、九州森林管理局で実施している花粉の少ないスギ苗木をはじめとした苗木の生産拡大を支援するための取組について紹介します。

### 九州における植付面積の推移 (国有林及び民有林を含む)



九州全体で苗木が不足

九州森林管理局

※1 花粉の少ない苗木  
林木育種センター、都道府県等の指導の下に設定・改良された採種園、採穗園、採種木又は採穗木から採取された、花粉の少ない品種（無花粉品種、少花粉品種、低花粉品種及び特定母樹）の種穂から育成された苗木。

### 管内概要

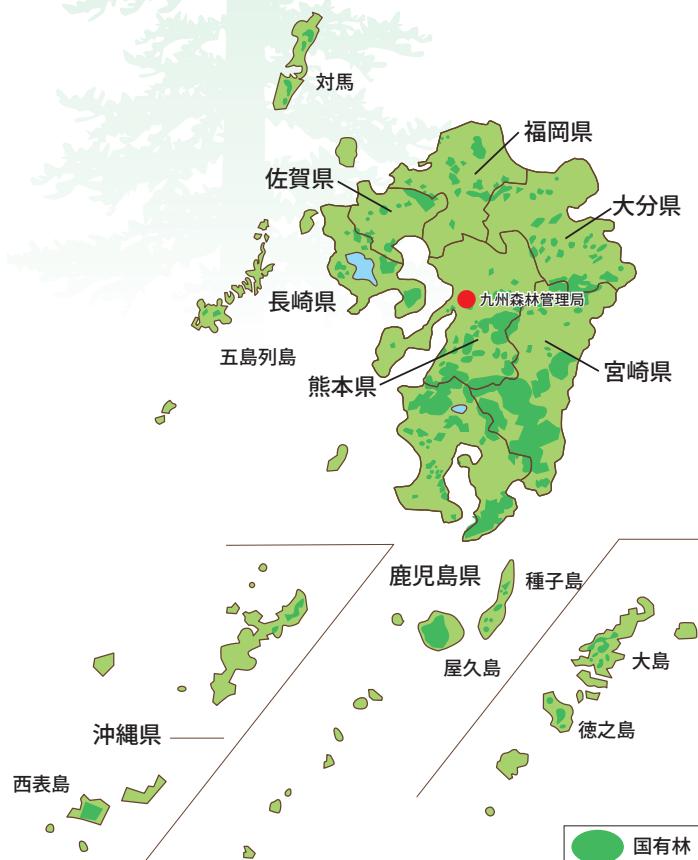
**所在地** 熊本県熊本市西区京町本丁2番7号

**区域面積** 419万ha  
うち森林面積 277万ha  
うち国有林面積 53万ha

**関係自治体** 8県（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

九州森林管理局は、九州・沖縄8県に所在する森林の約2割（約53万ha）に相当する国有林の管理経営を担っており、温暖湿潤な気候により多様な森林が広がり、スギやヒノキの人工林が多いのが特徴です。

また、九州山地や屋久島などには原生的な森林が残り、ヤクシカや希少植物など多様な生物の生息地として、生物多様性保全に配慮しつつ、地域資源活用を目的とした間伐や再造林など、持続可能な管理が進められています。



等と連携して試験研究を行ってきました。

九州森林管理局では、成長に優れ、花粉の少ない品種として農林水産大臣に認定された特定母樹のスギ苗木（スギ特定苗木）を、平成28年度に熊本県人吉市の国有林（低コスト造林実証団地内）に植栽し、大学等と連携して試験研究を行ってきました。

## 花粉の少ないスギ特定苗木の生産拡大に向けた主な取組

### （1）国有林における「指定採取源」の造成

国有林が指定採取源に登録されたことを踏まえ、局は、令和6年11月に、スギ特定苗木の増産意欲のある苗木生産者3者と「スギ特定苗木の安定需給協定」を締結しました。本協定は、スギ特定苗木の増産に必要な穂木を指定採取源から提供することで、スギ特定苗木の安定的な確保と九州各地における生産拡大の支援を目的としています。



※3 母樹  
穂木を採取することを目的として、幹を切断して、樹高2m程度に整えた樹木。



※2 穗木  
九州ではスギ苗木を、種から育てるのではなく、30cm程度に切り取った穂木を培地に挿して、育ててから出荷。

令和6年度には、穂木を採ることが可能な大きさに植栽木が成長し、熊本県の「指定採取源」に登録されました。なお、スギ特定苗木による造林地の採取源指定としては、全国の国有林で初めての事例となりました。



低コスト造林実証団地の詳細  
林野(2019.12\_No.153)



熊本県人吉市 西浦国有林  
(熊本南部森林管理署管内)  
低コスト造林実証団地内でスギ特定苗木の指定採取源として登録された区域



低コスト造林実証団地の詳細  
林野(2019.12\_No.153)

具体的には、協定締結者である苗木生産者が、国有林内の指定採取源の穂木を採取・購入し、その穂木から特定苗木を生産することとしています。生産された苗木は、局管内の造林地等に植え付ける苗木として、森林管理署等と契約した造林事業の請負事業体に納入されることになります。

本協定により国有林が特定母樹の穂木の安定的な供給源となることで、スギ特定苗木のさらなる生産拡大が期待されます。

として、森林管理署等と契約した造林事業の請負事業体に納入されることになります。本協定により国有林が特定母樹の穂木の安定的な供給源となることで、スギ特定苗木のさらなる生産拡大が期待されます。

力被害対策に効果があるとされています。令和6年9月には、宮崎森林管理署と苗木生産者で、スギ中苗の安定的な確保を目的として、苗木の需給に関する3カ年の相互協定を締結しました。



熊本県熊本市 九州森林管理局 「スギ特定苗木の安定需給協定」締結式

## おわりに

九州は、苗木生産者の努力により、スギの挿し木による苗木生産技術が進歩している地域です。苗木生産者に意欲を持って生産拡大に取り組んでいただけのよう、九州森林管理局では引き続き、国有林を活用して、安定的な需給体制の構築に努めています。

中苗生産は、一般的な苗よりも生産に時間が要するなど一定のリスクを伴います。が、需給協定を締結し、国有林で安定して引き受けしていくことで、生産体制づくりに寄与する」ことが期待されます。



左:通常のスギコンテナ苗(苗長50cm)  
右:中苗のスギコンテナ苗(苗長90cm)

## 低コスト造林に向けた 苗木生産体制強化の推進

通常の苗木より大きな中苗と呼ばれるスギ苗木を用いると、下刈コストの削減やシ

